

食道癌切除組織における Programmed death ligand-1 (PD-L1) 発現の臨床的意義 に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象

2009年1月～2014年12月までの間に当院で食道癌の根治手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

免疫チェックポイント分子の Programmed death-1 (PD-1) のリガンドである Programmed death ligand-1 (PD-L1) の発現は、さまざまな癌腫において予後不良因子であるとの報告がなされてきました。しかし近年、乳癌や悪性黒色腫などにおいて、その発現が良好な予後と関連するとの報告も散見され、癌組織における PD-L1 発現の臨床的意義についてはまだ一定した結論に至っていません。今回我々は、食道癌での PD-L1 の発現とその臨床病理学的特徴や予後を検討することを目的としました。2009年1月1日～2014年12月31日の間に、当院において食道癌の根治手術を行い、薄切切片を用いて PD-L1 の免疫組織化学染色による評価が可能であり、かつ詳細な予後が判明している 80 症例を対象とし、PD-L1 の免疫染色を行いました。この染色結果と、それらの臨床病理学的特徴及び全生存率、疾患特異的生存率などの長期予後を検討します。

研究期間：学校長承認後～2020年12月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：手術で摘出した組織

情報：病歴、抗がん剤治療の治療歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 外科学講座

所属：外科 職名：助教 氏名：矢口 義久（研究責任者）

〒359-0042 埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1211(代表)